

地域づくり活動 NPO 事業助成事業 実績報告

事業区分 (01-04)

団体名	(公社) 兵庫県精神福祉家族会連合会	代表者名	会長 新銀 輝子
事業名	2022年度兵家連メンタルヘルスセミナー		

<事業実施実績>

年月日 定例は「月1回」「毎 ○曜日」等で記入	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) ※講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
8月 7日	兵庫県福祉センター	33 (6)	精神障害者の家族のための介入技法プログラム (その1) 講師：中元康雄 (幸地クリニック精神保健福祉士)
9月 4日	神戸市立 総合福祉センター	35 (4)	精神障害者の家族のための介入技法プログラム (その2) 講師：中元康雄 (幸地クリニック精神保健福祉士)
10月13日	灘文化センター	31 (4)	精神障害者の家族のための介入技法プログラム (その3) 講師：中元康雄 (幸地クリニック精神保健福祉士)
11月10日	同上	20 (4)	精神障害者の家族のための介入技法プログラム (その4) 講師：中元康雄 (幸地クリニック精神保健福祉士)

<効果と成果>

今回参加された方は、ご家族が70%、当事者が15%、支援者(学生含む)が15%程度です。ご家族の方々には、作業所運営に係る方等も居られ、ピアサポーターとの連携に繋がることも期待できると思います。

今回は、昨年、一昨年のセミナーとの異なり、一つのテーマを深掘りした講習を目指しました。

精神疾患の方との対応方法は、こころに関わる事象であり、非常に繊細であることを学びました。しかしながら、一つの方向性を教わることが出来て、ご家族としても『そうなのだ!』と納得の表情が見られて、企画して本当に良かったと思っています。この手法は、全国的にも珍しい手法で、最近認められてきたものと聞いています。今回は、家族の手法として説明されていますが、一般の方々にも理解しやすく、且つ、活用しやすい形になっており、有益だと思えます。只、常時、トレーニングが必要であり、直ぐに効果が出るものではなく、何時も頭に置きながら、少しずつ習得していく技術ですが、習得できる技術と感じました。

<今後の展望>

1. 精神障害者への具体的な対応方法は、色々な手法があるが、今回の手法が具体的で分かり易かった。
2. しかしこの手法は、頭で分かっても実践をすると、反復練習が必要であり、トライアンドエラーの連続となる。その中で、少しずつ習得していくもので、その内に障害者の方も、『あれ、対応の方法が変わったな?』と気が付いてくる。その雰囲気の中で、相互が理解をし始めると良い方向に向いていくことになる。
3. 何回も聞きながら、この手法を試みて行くことが大事であることを今後も一つの方向性として示して行きたい。
4. 一方、福祉サービスや精神科医療の内容や現状の問題点については、ご存じない方が多く、今後も機会をみて啓発活動を続けて行かねばと考えています。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	280,000
自己資金	149,710
合 計	429,710

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金 (円)
直接 経費	講演者謝金	80,000	80,000
	スタッフ謝金・交通費	63,280	63,280
	チラシ・資料印刷費	186,517	39,156
	その他(会場費等)	19,360	19,360
	小 計	349,157	201,796
	間接経費(一般管理費)	80,553	78,204
	合 計	429,710	280,000